

# 『こどもまんなかアクション』リレーシンポジウム in 福山 が開催されました。



こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するために、『こどもまんなかアクション』リレーシンポジウム in 福山』が令和6年1月27日(土) iti SETOUCHI コワーキングスペース tovio で開催されました。シンポジウム会場には多くの聴講者が集まりオンラインでもライブ配信されました。また、会場外では「子育て応援マルシェ」「福山いいもん」マルシェなどが開催され、親子連れをはじめ多様な世代の方々が多数来場されました。

福山市の枝広市長による開会挨拶ののち、こども政策担当大臣がビデオメッセージで「こどもまんなか社会」の実現に向けた「こども大綱」を策定したことなどを報告。その後、こども家庭庁による基調講演、コラムニスト・犬山紙子氏のトークショー、「前向きに子育てできる社会をつくるために何ができるか・どうすればよいか」を話し合うパネルディスカッションが行われました。

## ■ 基調講演

基調講演の冒頭で、こども家庭庁審議官が「少子化対策は総合力」であると強調しました。少子化対策には“即効薬”が存在せず長期的な施策になること、どの地域でも通用する“模範解答”が無く地域ごとにそれぞれの最適解を模索していく必要があることに言及。こどもを持つ親が前向きに子育てを行うことのできるこどもまんなか社会の実現のため、国が支援制度を充実させながら地域や社会とも協力していく、総合力が問われる取組みであると伝えました。

また、出生率低下の要因として「若い世代が結婚・子育ての将来展望を描けない」「子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境」「子育ての経済的・精神的負担感」の3つの課題を提示。それらを解消するためにも「こども未来戦略方針」で実施する「加速化プラン」で、様々な負担を軽減し子育てしやすい環境の醸成に注力していく方針を説明しました。



開会挨拶で、昨年7月の宣言で福山市が「応援サポーター」になったことを伝えた枝広市長



加藤大臣はビデオメッセージで「こども大綱」策定を報告



子育て環境の抱える現状の課題と今後の展望を述べたこども家庭庁審議官の基調講演

## ■ トークショー・パネルディスカッション

『夫婦×家族×社会「みんなで考える共働き・子育て」』の講師として登壇した犬山氏は、多くの夫婦取材してきた知見から、パートナー同士の関係性を“生き物”と表現。意識的に手を加えないと枯れてしまうが、しっかり世話をすれば良い関係性に育っていく、と伝えました。さらに、良い関係性を育てるためには「良い話し合い」が重要で、そのために日頃からちょっとしたコミュニケーションで話し合いの成功体験を積み重ねる、各家庭で話し合いのルールを決めておく、など有意義な話し合いを実現させるためのアドバイスを送りました。

3つ目のプログラムのパネルディスカッション「何する。どうする。少子化対策」では、こども家庭庁審議官のほか、FQ JAPAN 編集長 林憂平氏、株式会社ハーストリープラス代表取締役 さとうみどり氏、MIC 株式会社ひとづくり部課長 神原慧太氏がパネリストとして登壇しました。仕事と子育ての両立の実現に向けて、「夫婦・家族」「企業・社会」「聴講者一人ひとり」がそれぞれの立場からできることについて、

企業などで取り組まれている具体的な事例も紹介しながら、多様な観点からの意見が交わされました。

【概要】名称:『こどもまんなかアクション』リレーシンポジウム in 福山 / 場所:iti SETOUCHI コワーキングスペース tovio / 日程:令和6年1月27日(土) / 内容:《基調講演》こども家庭庁審議官 《トークショー》コラムニスト 犬山紙子氏『夫婦×家族×会社「みんなで考える共働き・子育て」』《パネルディスカッション》「何する。どうする。少子化対策」 / 主催:福山市こども企画課 / 協力:こども家庭庁